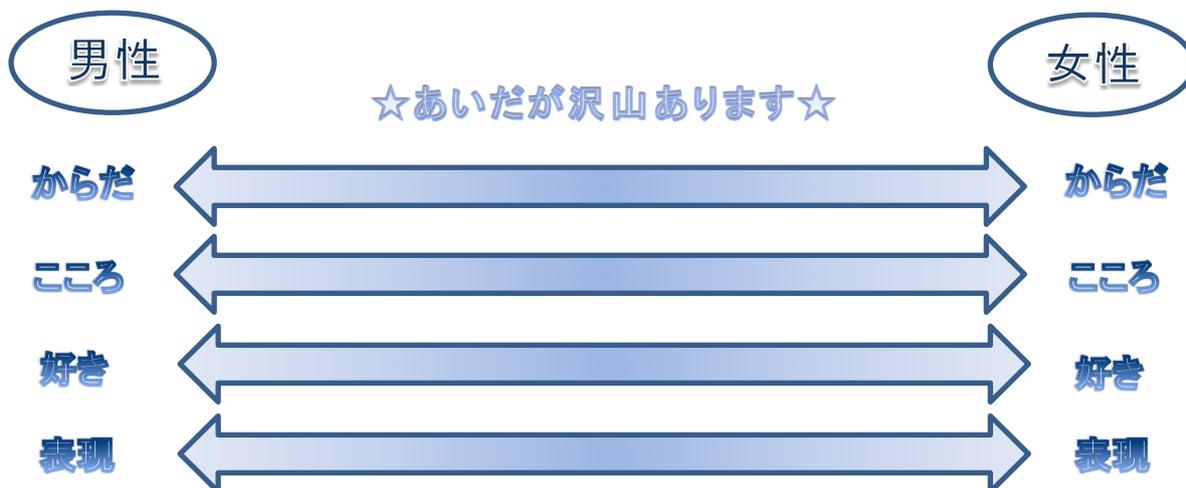


～セクシュアリティは十人十色～

いくつかの要素が組み合わさって、多様な性が存在しています。「男性」「女性」で単純に分けようとしたり、その人の服装、しぐさ、言葉遣いなどで性別を判断したり、固定概念で決めつけたりしてしまうことで、知らず知らずのうちに誰かを傷つけてしまっているかもしれません。



からだの性

(生物学的性)

生まれた時の生物学的な性を示しています。男性と女性の両方の特徴を同時にもって生まれてくる人もいます。必ずしも男性と女性のどちらかに分けられるわけではありません。

こころの性

(性自認)

自分が自分の性別をどのように認識しているのかを示します。「からだの性」と「こころの性」が一致せず、自身のからだに違和感を持つ人もいます。

好きになる性

(性的指向)

恋愛対象が男性なのか女性なのかを示します。異性を好きになる人もいれば、同性を好きになる人もいます。また、好きになる相手の性別は問わない人もいれば、男性、女性どちらに対しても恋愛感情をあまり抱かないという人もいます。

表現する性

(性別表現)

服装や言葉遣いなどを自分自身がどのように表現したいのかを示します。からだの性・こころの性と表現する性が同じとは限りません。

身近な人から打ち明けられたら・・・

もしあなたの家族、友人、同僚から LGBT であることを打ち明けられたらどうしますか？

それはあなたが信頼されているということです。

あなたも誠実に向き合しましょう。

★まずは話してくれたことに、「ありがとう」と伝えましょう。

★打ち明けられた時に感じた疑問や気持ちを素直に伝えましょう。

★「何かできることはない？」、「一緒に考えよう」など、支える姿勢を伝えましょう。

★これまで打ち明けた範囲を確認するとともに、誰に伝えていいのかを確認しましょう。

※打ち明けるかどうかを決めるのは本人です。いつ、誰に、どのように打ち明けるのかは、当事者本人が決めることであり、周囲がそれを強要したり、必要以上に詮索したりするようなことは、やめましょう。

打ち明けてくれた人を傷つけないために・・・

★勝手に話さない

あなたに打ち明けてくれたからといって、共通の知人にも話してよいとは限りません。決して本人の了解なしに他人には話さないようにしましょう。

★決めつけない

自分のセクシュアリティを決められるのは自分だけです。「勘違いじゃないの？」、「そのうち治るんじゃない？」と否定したり、「レズビアンってこうなんだよね」など、イメージだけで勝手に決めつけたりしないようにしましょう。型にはめようとせず、ありのままの相手を受け入れましょう。

